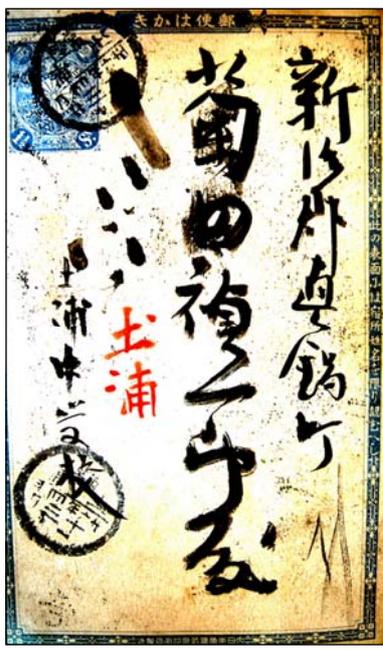
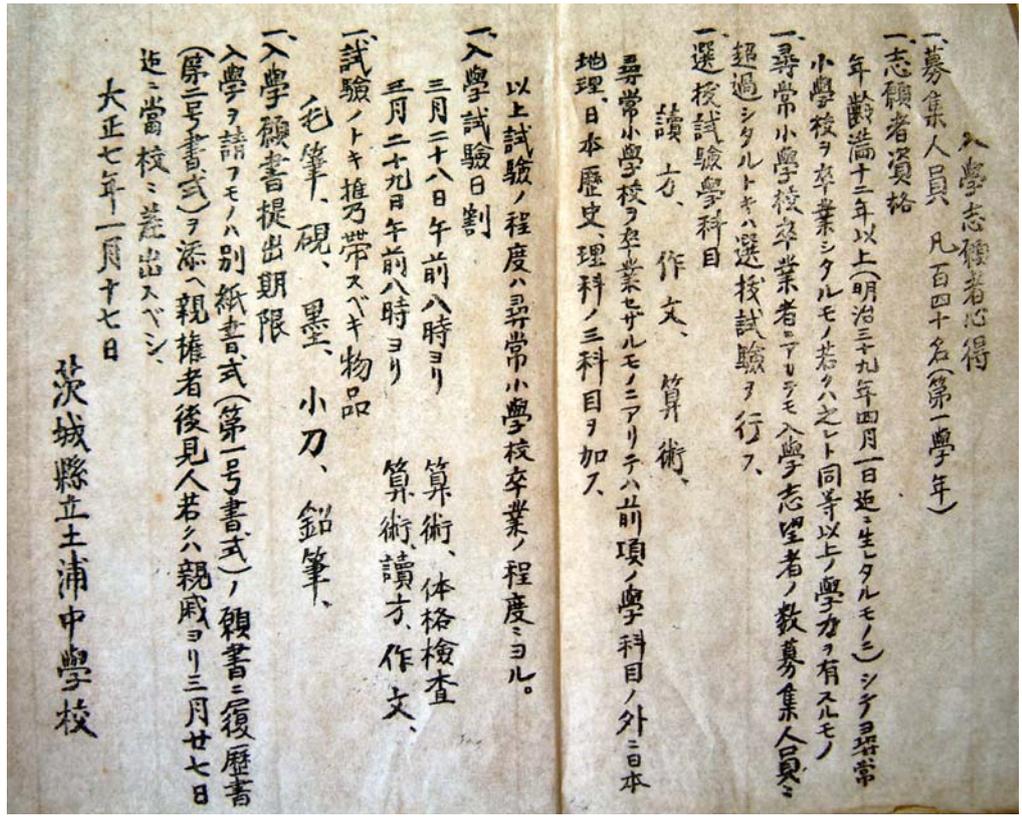


合格おめでとうございます

左の写真は今から百年余り前(明治38年ごろ)の本校です。学校の創立は111年前の明治30年、茨城県立尋常中学校土浦分校として産声をあげました。大変歴史の古い学校なのです。このような全国有数の伝統校の一員になられた皆さんを心から歓迎いたします。



大正七年度の入学志願者心得 →
明治三十六年度の合格通知・入学許可書 ←



合格通知書
327名の諸君に!

『茨城県立土浦中学校に合格したことを通知します』
左二つの資料は、明治36年4月13日付けの本校合格を通知した郵便はがきです。
平成20年3月12日、茨城県立土浦第一高等学校の合格通知書を手にしたとき、どんな感慨が込み上げてきましたか。資料の土浦中学校合格通知書を手にした菊田禎一郎さん(菊田君では失礼ですね。本校の大先輩ですから)も皆さんと同じ思いで、幾度となく読み返したことと思います。
明治30(1897)年以来、同じ感慨に身を委ね、未来に大きな夢を羽ばたかせた少年が毎年春には生まれました。そして今、君たち327名は同じように夢と希望を抱く百十二回目の少年となったのです。合格を心からお祝いすると共にこれから一高での限りない可能性への挑戦を期待します。



試験場には
小刀を携えて?



旧中学校校章



高校校章

まだ、入学試験の余韻をもつ人もいるでしょう。県内でも屈指の難関校を突破してきたわけですから、その達成感に格別なものと思います。
上の資料は、明治・大正期における本校(もっぱら土中といいました)の「入学志願者心得」です。募集人員はおよそ百四十名とあります。当時の倍率は例年5倍前後といわれていましたから、かなり厳しい入試であったことは今と変わりませぬ。
入試科目は読方・作文・算術とあり、小学校を卒業していない受験生には、さらに日本地理・日本歴史・理科の3科目を加えるとしています。
試験場への携行品として毛筆・硯(すずり)・墨・小刀・鉛筆と記されているあたりには、時代を感じますね。
このような古い事柄に出会うことができるのも伝統校ならではのと言えます。